

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「環境教育」「国際理解教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視点と主体的に生きる力を有する生徒を育成する</p>	<p>■公開授業や研究授業の取組を通して授業改善に努めたが、生徒の学習意欲を喚起するまでには至らなかった。各教科で生徒の実態に合った授業改善の取組を進める必要がある。</p> <p>■就職は100%の内定を得たが、私立大学、国公立大学とも合格者数が昨年度より減少した。入学時の希望が達成できるよう学習習慣を身に付けさせ学力を向上させる取組に力を入れる。</p> <p>■「環境教育」に関して環境大臣表彰を受けた。生徒の生活委員による環境保全活動の新たな取組も始めた。KES認証の更新も含め、総合的な学習の時間を使って「国際理解教育」「表現活動」との関連性を高めた取組に着手する。</p> <p>■広報活動は、ツイッターやホームページによる発信により学校を広くアピールするよう努めた。学校説明会も在校生のプレゼン等により中学生に親近感を持たせることができた。</p> <p>■部活動については、部集いを定期的に開き北稜生として自覚ある行動を校内外において取ることができるよう指導した。</p> <p>■京都府自転車安全利用推進員の講習を約270人の生徒が受講し、交通安全意識を高めることができたが、自転車の安全運転については継続して注意喚起を図る必要がある。</p>	<p>【目標】 学習習慣を身に付けさせて学力を伸ばし、希望進路の実現を図る。自主性と社会性、規範意識が養えるよう特別活動と部活動の充実を図る。地域の学校としての使命を学校全体で共有して信頼される学校づくりを行い、3つの教育テーマ「国際理解教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連させた教育活動を展開する。</p> <p>【項目】 1 学習指導 (1)生徒の学力を向上させる方策を各教科で研究し実践する。 (2)教員相互の授業参観を通して授業改善を進め資質能力の向上を図る。 (3)生徒の学習意欲を高め理解を深めさせるために、ICTを活用した授業の開発に取り組む。 2 進路指導と生徒指導 (1)キャリア教育を推進し希望進路実現に向けた取組を改善する。 (2)北稜祭等の活動を通して生徒の自主性を養う。 (3)挨拶や身だしなみ、言葉遣いの指導に力を入れ規範意識を醸成する。 3 部活動指導 (1)学習と部活動を両立させる指導に力を入れる。 (2)部活動員に学校生活のリーダーとしての自覚をさせ、あらゆる活動に意欲的に取り組ませる。 4 魅力ある学校づくりと情報発信 (1)生徒が協働して課題解決型学習に取り組み、自ら考えたことを校外に発信する機会を設ける。 (2)学校の日常の取組が保護者や地域によりよく分かるように、ホームページやツイッターをさらに充実させる。 5 地域との連携 (1)近隣の大学や研究機関、小・中学校と学習や文化、スポーツの交流を行い連携の強化を図る。</p>

評価領域	重点目標	具体的方策	評価基準	評価	成果と課題
第1学年部	<p>学習習慣の定着と学力の伸長を図る。</p> <p>部活動を柱とした、生徒指導を充実させる。</p>	<p>面談を充実させ生徒の進路目標を明確にする。進路調べ学習を実施し、自らの進路について主体的に考え、自ら学ぶ意識を向上させる。</p> <p>部活動への加入率向上および定着を図り、挨拶や身だしなみ、言葉遣い、話を聞く態度の指導を徹底し規範意識を身につけさせ、活力ある集団を育成する。</p>	<p>面談を複数回実施できたか。生徒の学力が伸長したか。</p> <p>部活動の加入率・定着率が向上したか。基本的な礼儀作法・規範意識が身についたか。</p>		
第2学年部	<p>生活習慣の確立と授業規律の確保を図る。</p> <p>学習習慣の定着と学力向上を図る。</p>	<p>・高校生としてあるべき姿を理解させ、自らを律して行動できるよう指導する。 ・教科担当と情報を共有し、課題がある生徒への指導(家庭連絡含む)を素早く行う。また、担任による授業中の見回りをを行い、授業中の様子の把握に努める。</p> <p>・長期的展望をもって学習に取り組みさせ、学習時間の確認と指導を行う。 ・意欲を喚起し学力を向上させるために、実態に応じて担任から継続的に課題を出す。</p>	<p>遅刻者数1週間10名以下。 授業態度等調査での指導対象生徒、期間内10名以下。</p> <p>学習時間が増加したか。継続的な課題に取り組めたか。</p>		
第3学年部	<p>手帳活用によるPDCAサイクルを習慣化し、自己管理能力を育成する。</p> <p>学力の向上を図り、希望進路を実現させる。</p>	<p>SHRやLHRで手帳を開かせ、記入する時間を持つ。教科担当とも連携し、必要事項を手帳に記入させるよう指導する。また、手帳を見ながら一週間を振り返る時間を持つことで、自ら不十分なところを計画直し、常に改善していくよう促す。</p> <p>毎日の授業・家庭の学習時間大切に指導を繰り返し行い、きめ細やかな面談で生徒の希望進路実現をサポートする。</p>	<p>週の始めのSHRには手帳を開く時間を持ち、前の週の振り返りと、新しい週の計画をさせることができたか。</p> <p>手帳の「学習時間」欄に定期的に記入させることができたか。</p> <p>進路が決まるまで学期に少なくとも2回は面談を行ったか。</p>		

国語科	<p>生徒の学習意欲を高め、しっかりと家庭学習を確立させる。</p> <p>多様なそして多数の語彙を習得させ、豊かな世界観を育成させる。</p>	<p>・予習や復習のきめ細かな指示と確認、小テストの定期的実施を行う。 ・定番教材の指導方法を見直し、生徒が主体的に参加できる授業形態をさらに工夫する。</p> <p>・文法的体系だけでなく、類義語や対義語などの横の広がり、語源などの縦のつながりなど、いわば言葉のネットワークを意識させる。 ・ブックレビューの作成など、読書意欲を喚起させる工夫を協議し実施する。</p>	<p>進路部実施による家庭学習時間調査において、国語が週3時間以上になるようにできたか。</p> <p>定期的に読書調査を行い、読書量が0冊という生徒を皆無にできたか。</p>		
地歴・公民科	<p>各科目を通じて「国際教育」「環境教育」「主権者教育」の視点を踏まえた授業展開を心がける。</p> <p>生徒の実態に合わせた「わかりやすい授業」の教材開発に取り組む。</p>	<p>グローバルな歴史認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向に注目しながらの授業展開を工夫するとともに地域社会との関わり方のなかで、主権者意識を育てる。</p> <p>すべての科目において、学習内容の精選を行うとともに生徒の視点に合わせた教材開発(視聴覚教材 ICT)を心がける。その際、時事問題や地域の課題などの教材開発、展開を心がける。</p>	<p>絶えず現代世界の動向を見据えながら授業展開できたか。俯瞰的な視点で事象の因果関係を説明できたか。主題学習やレポート作成などを通じて主権者意識を深めることができたか。</p> <p>教授内容の精選ができたか。新資料や視聴覚教材をタイムリーに提供できたか。レポート、討論など諸場面で活用できたか。</p>		
数学科	<p>生徒の希望進路実現に向けて、低学年で基礎を固める。</p> <p>入試に対応できる力を育てる。</p>	<p>授業で使っている問題集を利用して、毎日復習する習慣を身につけさせ、知識の定着を小テスト等で確認をする。また、定期考査については、各コースの到達目標に即したものを作成し学力の定着を図る。</p> <p>土曜講座や平常補習・朝補習(センター試験対策)で入試レベルの問題に取り組み、基本事項をもとに論理的に思考する力を養う。</p>	<p>提出物・小テストなどをチェックするなどして、家庭学習の習慣が身についているかどうかを確認する。</p> <p>各学年で実施される府立高校実力テスト、スタディサポート、模擬試験の成績を伸ばすことができたか。</p>		
理科	<p>自然現象への興味・関心を持たせ、授業への集中力を高める。</p> <p>日常の学習習慣を定着させ、成績不振をまねかない丁寧な個別指導を行う。</p>	<p>それぞれの授業において演示実験や演習・発問などを組み合わせる。また身近な自然現象を授業内容に取り入れるなどの工夫を行う。エッセイⅡ(アドバンスGAC理系・スーパーアドバンスGACコース)については、地球研、京都精華大学とも連携し、環境教育の充実を図る。</p> <p>学習習慣の確立のため、日常的に課題プリント、実験・実習レポート等を提出させてチェックし、評価に加味する。必要に応じて、低学力生徒に対する考査前補充を行う。</p>	<p>授業改善につながる教材作りができたか。授業アンケートの結果も踏まえて検証する。</p> <p>生徒の学習習慣を確立させる課題等を課すことができたか。学習時間調査にその成果が反映されたか。</p>		
保健体育科	<p>生徒の意欲を高める授業内容の実施</p> <p>安全な授業進行の徹底</p>	<p>選択制授業の幅を広げ、生徒の意欲向上に努める</p> <p>日々の施設点検及び授業前の生徒を含めた安全点検を行う</p>	<p>授業への出席率及び参加率95%、担当教員への課題提出率100%及び課題点検回数2回以上</p> <p>単元開始前での体育科教員全員による施設用具点検100%及び毎時間の生徒準備時の点検100%</p>		
芸術科	<p>芸術の幅広い活動を通して、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばす授業を目指す。</p> <p>新たな授業展開の工夫に取り組む。</p>	<p>レポート等を用いて生徒に自己を振り返らせることにより、芸術における能力が高まったかどうかを評価させる。</p> <p>ICTやアクティブラーニング等の研修会等に積極的に参加することで、資質能力のさらなる向上を図り、生徒への還元を考えていく。</p>	<p>芸術の感性が高まり、諸能力が伸びたと感じた生徒が70%を超えるかどうか。</p> <p>ICTやアクティブラーニング等の新しい技術や授業展開を実践、活用できたか。</p>		
外国語科(英語)	<p>「国際理解教育」の中心的な教科としての自覚を持ち、生徒の学習意欲を高め学力を向上させる。</p>	<p>家庭学習を習慣づける。具体的には、小テストを毎週実施したり、予習復習を詳しく指示し点検する。</p> <p>全体として英語検定受験者数を増やす。2年終了時までに、文理コースの生徒は準2級、英語コースの生徒は2級取得を目指すよう受験を勧める。また、英語コースの生徒に対して、1年次から必ず一度は受験するよう指導する。受験する生徒に対しては一次試験についても事前指導を行う。英語コースについては「アクティブイングリッシュ」及び「北稜エッセイ」の授業でも問題演習を行う。GTECについて、各学年とも1年後にはコース平均をGIC30点、GAC/GEC60点以上アップを目指す。</p>	<p>各小テストの合格率70%、提出物の提出率100%を目指す。</p> <p>英語検定受験者数の20%増を目指す。また、2年次の準2級の合格率80%、2級合格率30%を目指す。GTECについて、各学年とも1年後にはコース平均をGIC30点、GAC/GEC60点以上アップを目指す。</p>		
家庭科	<p>1人の生活者として自立させる。</p> <p>共生を考える。</p>	<p>実習を通して、食生活や消費者問題を中心に自立して生活することを考えさせる。</p> <p>NIE学習などを取り入れ、現代の保育や高齢社会の課題について考えさせる。</p>	<p>献立や実習レポートを作成において、バランスのとれた献立作成ができていないか。消費者としての意識が確立できているか。</p> <p>単元の終わりのレポート作成において、各課題に対してしっかりと考えられているか。</p>		
情報科	<p>教室にとどまらず、社会に目を向ける授業を心がける。</p>	<p>実社会で起こっている最新の問題を例示しながら授業を進める。</p>	<p>情報社会の光と影について十分理解し、正しい表現・発信ができていないか。</p>		